

# きょうのおつきさま、どんなかたち？

～「おつきさまをみてみよう」カードの取組み～

1 対象児 3年保育5歳児 33名

2 時期 9月

3 幼児の実態と教師の願い

2学期が始まり、クラスの中で教師からお月様の話を聞いたり、月に関する絵本を見たりして興味をもち、夜に月を見たことを話題にして会話を楽しむ姿が見られる。

月に関心をもっている幼児の姿を家庭でもしっかりと受け止め、夜空の神秘的な美しさや不思議さへの気付きを親子で共有し、心の中にしっかりと溜め込んでほしいと願っている。こうしたことが、幼児期以降の学習の場での気づきや発見につながっていくものと考えている。

4 ねらい

○親子で夜空を鑑賞し、月の満ち欠けの様子や天候に関心をもち、夜空に思いを馳せる。

5 取組の内容

- ・親子で1ヶ月間、園から配付した「おつきさまをみてみよう」（別紙参照）のカードに継続して記入する。
- ・幼児は見えた月の形を記入し、色を塗る。雨天時や曇りの場合には、その日の天気を記入する。保護者は幼児が疑問に思ったことに対して共感し、すぐには答えを出さずに一緒に考える。
- ・最終的には、保護者が月を見ている時の幼児のつぶやきや保護者が感じたこと等をカードに記入し、園に提出する。後日、担任よりコメントを記入して返却する。

6 指導上の配慮点

- ・月への興味や関心が増すように、掲示物の工夫をしたり、月に関する絵本を読み聞かせたりする。
- ・月に関する会話を楽しんでいる姿を認めたり、教師も会話に加わったりして、幼児が感じている「なぜだろう」「ふしぎだな」という思いを大切に受け止めるようにする。
- ・保護者に依頼して、親子で夜空を鑑賞するワクワクした気持ちを共有しながら楽しいひとときがもてるようにする。

7 取組を通した幼児の姿（ C：幼児 T：教師 ）

<会話の様子>

C「昨日お月様見た？」

C「先生、昨日のお月様、真ん丸かった。」

T「見たよ！ちょっと太とつたなあ。」

T「先生も見たよ。きれいだったね。」 など

親子で月を鑑賞し、観察することで、同じ目的をもって活動することを楽しんだり、会話がはずんだりし、平素のかかわりよりもさらに深く心が通い合うかかわりになった。また、保護者が幼児のみずみずしい感性にふれて、そのことを楽しむ姿にもつながった。幼児は、月の満ち欠けの不思議さや美しさをしっかりと心に刻んだ様子が伺えた。

8 取組の成果

幼児は、普段あまり戸外に出ることのない夜に、保護者とともに夜空を鑑賞することで、ワクワクする気持ちを味わえた。その気持ちが毎日、月を観察する意欲につながるとともに、月の満ち欠けの変化に気づき、興味や関心が増したと考える。